第1回 SPARC Japan セミナー2019
「人文社会系分野におけるオープンサイエンス ～実践に向けて～」

2019年10月24日（木）
国立情報学研究所

【パネルディスカッション　話題提供】

大学図書館とオープンサイエンス
－個人的な経験から－

SPARC Japanセミナー企画ワーキンググループ メンバー
東京大学附属図書館総務課専門職員（企画渉外担当）
　中村　美里　NAKAMURA Misa

▶ オープンサイエンス関連の主な大学図書館業務、取組など

- 機関リポジトリの運用
- オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）の取組
- 大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）の取組
- 各大学等でのオープンアクセス方針の策定
- 国立大学図書館協会

  「国立大学図書館機能の強化と革新に向けて

  ～国立大学図書館協会ビジョン2020～」（2016年6月17日）

  「国立大学図書館のオープンサイエンスへの取り組み」（2019年3月12日）
- 研究データの管理・保存　→　機関リポジトリへの研究データ登録例などはあるものの、大学図書館全体で見ると、まだ様子見という感じ？

- **所蔵資料のデジタル化・公開、デジタルアーカイブの構築・運用**

→今日は、人社系分野のオープンサイエンスとして比較的うまく進んでいるとも言われるデジタルアーカイブ関連のことについて、個人的経験からの話題提供を少しばかり。

個人的な経験1：国文学研究資料館(国文研)での取組

- 2015年11月：国文研と国立情報学研究所との協働により、国文研の古典籍350点の画像データ、書誌データ、一部の翻刻テキストデータを「情報学研究データリポジトリIDR」からデータセットとして一般公開。利用条件はCC BY-SA。
- 2016年11月：国立情報学研究所との連携のもと、情報・システム研究機構データサイエンス共同利用基盤施設 人文学オープンデータ共同利用センター（CODH）と新たに連携し、各種データセットを公開。
- 現在も登録データは増加中。 http://codh.rois.ac.jp/

データセット一覧

日本古典籍データセット

歴史的典籍NW事業においてデジタル化された古典籍のうち、主に国文研所蔵本を対象に、画像データと書誌データをセットで公開しています。さらに一部の古典籍には作品紹介や翻刻テキストデータ、タグ情報なども付与しています。

江戸料理レシピ

日本古典籍デー
に、江戸の料理
語訳・レシピ化
します。

並び	国文研書誌ID	書名	刊・写	刊年・書写年	西暦	冊数等	分類	備考	公開時期
1	200003080	書置之事	写	享保６		1軸	総記	貴重書	2019-01
2	200003090	人倫重宝記	刊	元禄９		2冊	総記	貴重書	2019-01
3	200016830	人倫訓蒙図彙	刊	元禄３		7冊	総記	貴重書	2019-01
4	200014211	周易	刊	慶長１０		3冊	学問・思想	貴重書	2019-01
5	200006817	源氏聞書／新撰六帖題和歌／光源氏一部連歌寄合	写	天文２		1冊	学問・思想	貴重書	2019-01

▶ 個人的な経験1：国文学研究資料館(国文研)での取組

データセットの活用例、公開データセットの拡充

くずし字学習支援アプリ KuLA

近世板本で使用されていた仮名や漢字を、3,000件の用例画像から学ぶことができるアプリ。用例画像の一部で、データセットの画像が使用されています。

2015年12月
データセットの活用を考えるアイデアソン
→江戸料理の再現

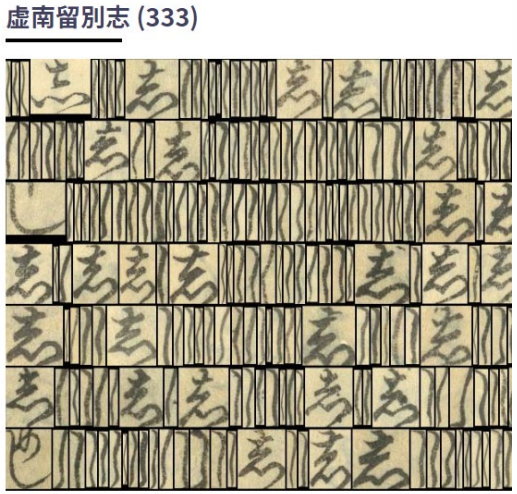
↓

クックパッド江戸ご飯

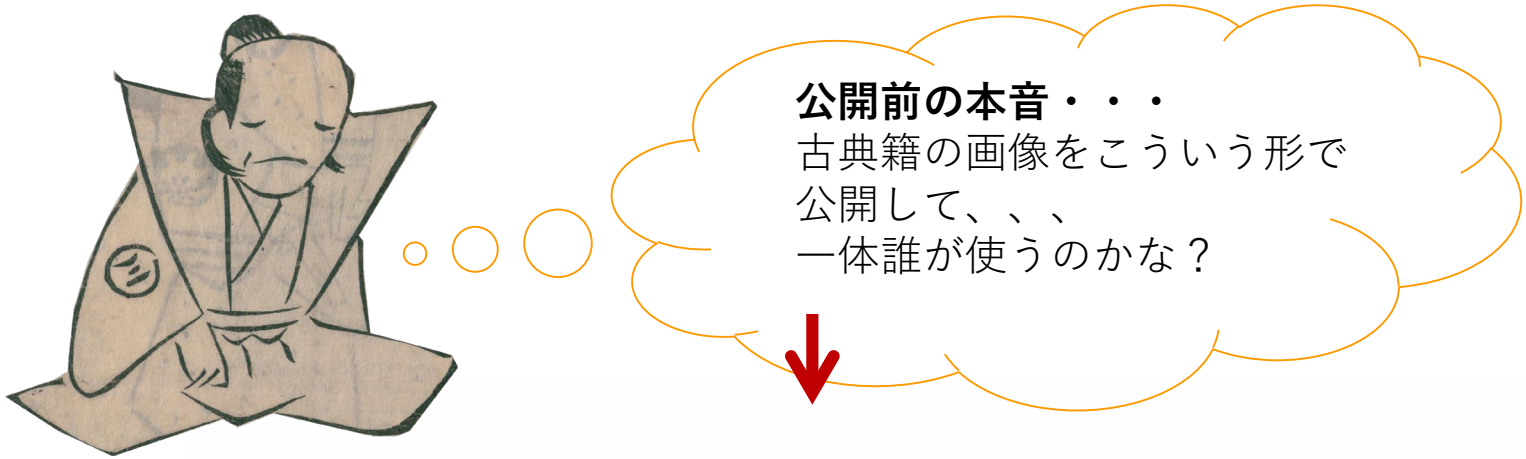
2016年11月
一文字ずつ画像を切り出し、文字のデータセットを公開

↓

日本古典籍くずし字データセット



個人的な経験1：国文学研究資料館(国文研)での取組



予想以上の反響。様々な分野の人が関心を持ってくれることを実感。

「国文研のデータはオープンサイエンスのグッドプラクティスに
なりそうだと思う。」(*1)　→「**え？　そうなの？**」→ **言われて気が付く**

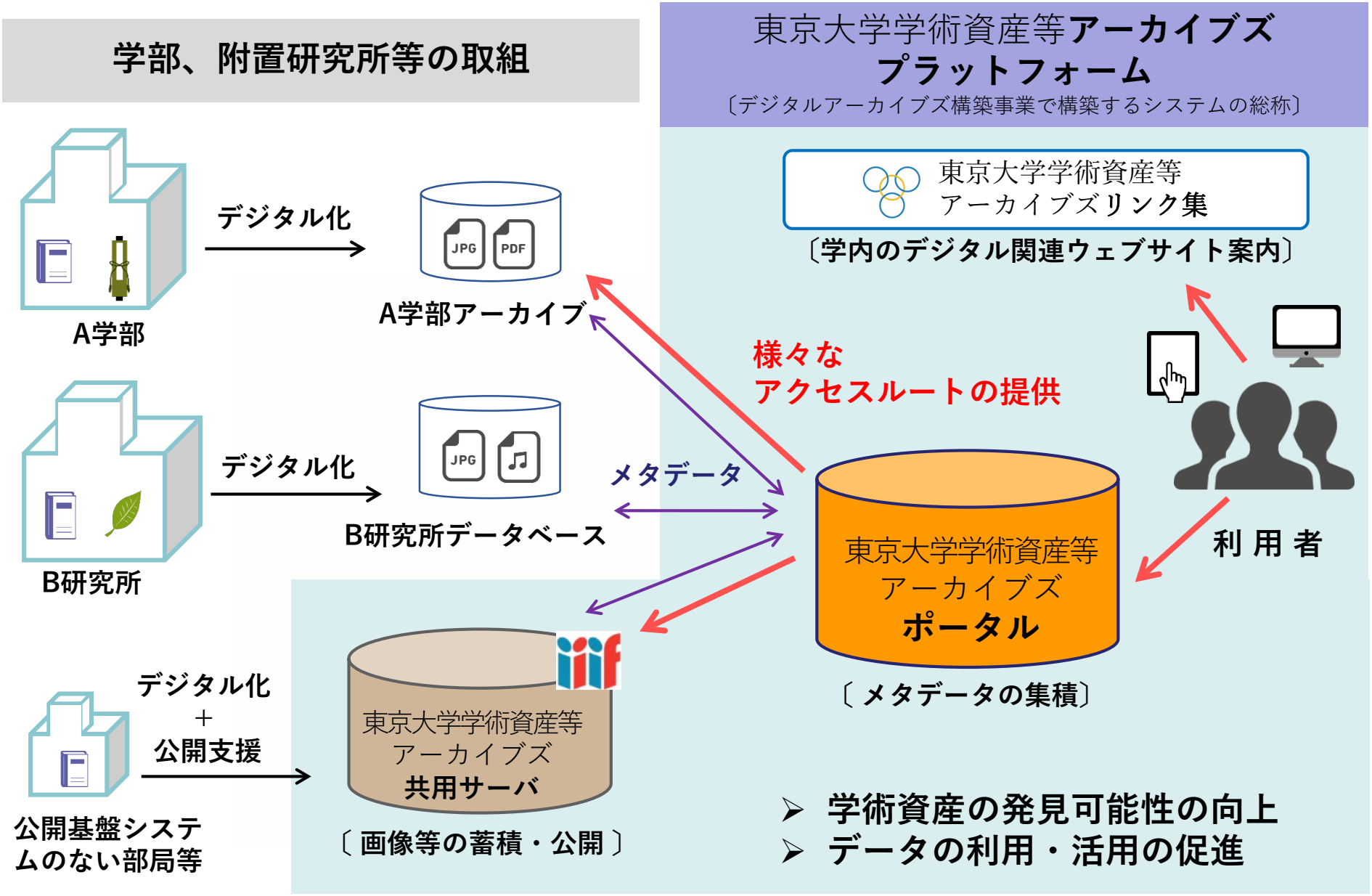
〔うまく進んだ理由のいくつか〕

- 明治時代以前に刊行・書写された古典籍が対象→著作権処理が不要
- 国文研大型プロジェクトとしての取組→CODHなど研究所（研究者）との協同体制が構築しやすい　など

※挿絵
耳鳥斎 画『絵本水や空』
（国立国会図書館所蔵）

(*1)平成28年度大学図書館シンポジウム
「10年後の大学図書館を考える：オープンアクセス時代の大学図書館の新たな役割」報告
大学図書館研究　110 巻 (2018)　https://doi.org/10.20722/jcul.2025

▶ 個人的な経験2：東京大学デジタルアーカイブズ構築事業



▶ 個人的な経験2：東京大学デジタルアーカイブズ構築事業

【全学的な取組】

・**2019年6月：「東京大学学術資産等アーカイブズポータル」の公開**

当事業によりデジタル化された資料だけでなく、これまで学内の様々な部局が個別にデジタル化し公開してきたコレクションの横断検索が可能に。

https://da.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/portal/

【総合図書館を中心とした取組】

・**2018年1月：IIIF対応の画像公開を開始**

・**2018年6月：画像データ等の二次利用条件を緩和（オープンデータ化）**

→　現在、総合図書館以外の図書館・室にも広がっています

▶ 個人的な経験2：東京大学デジタルアーカイブズ構築事業

【総合図書館を中心とした取組-2】

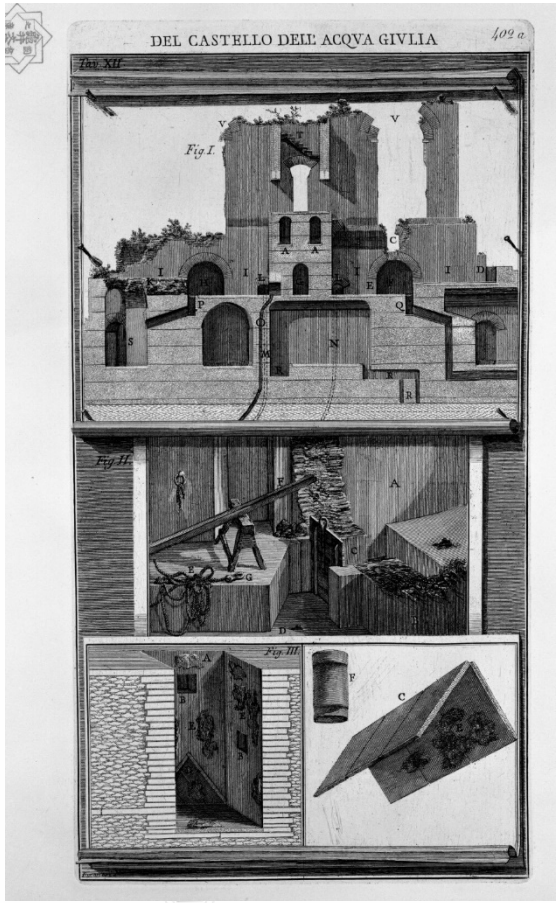
・2019年9月：亀井文庫「ピラネージ版画集」の再公開

総合図書館の貴重図書である亀井文庫「ピラネージ版画集」。2003年頃に科研費により画像データベースが構築されたが、**システム運用上の問題で公開停止**期間が長く続いていた。（データベース構築やデータ管理は、図書館はノータッチ。）

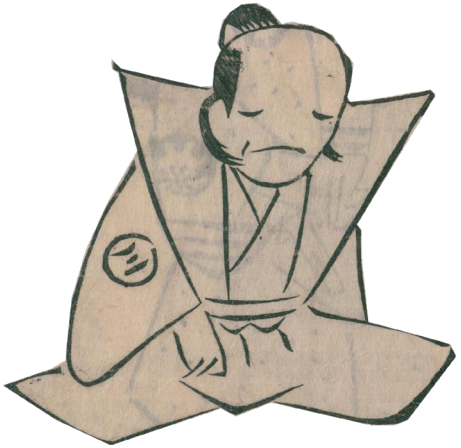
再公開したい、でもデータがどこにあるか分からない。
しかし「**もったいない！**」→関係部署に問い合わせ。

当時の担当教員と連絡が取れ、**無事にデータ入手。**
→相談の結果、まずは**必要最低限の機能で書誌・画像を再公開**することに。

利用条件は、他の総合図書館所蔵資料と同じ**オープンデータ**とすることに。



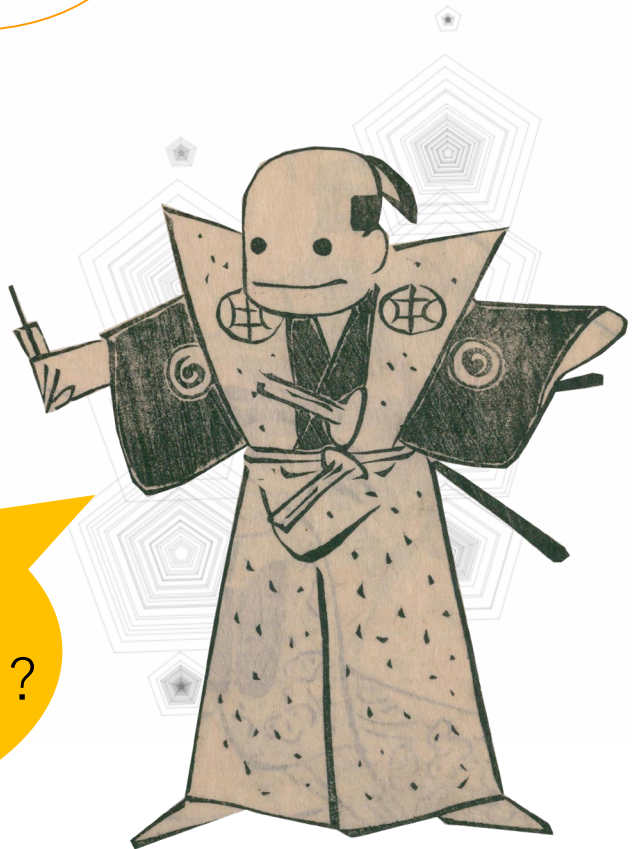
東京大学総合図書館所蔵
『Altra sezione verticale e particolari vari.』
（亀井文庫ピラネージ版画集から）



大学図書館では「オープンサイエンス」と盛んに言われる前から、所蔵資料のデジタル公開に取り組んできたよね？

でも今は、そこに何が求められているのだろう？？？

- 単なるお宝資料の画像公開から、公開者も活用を念頭においたデータ公開へ
- 利用しやすい形式での提供
- 利用しやすい条件での提供＆条件の明示
- 教員や研究者との協働も、可能な限り・・・



おのずとそれが
オープンサイエンス？

※挿絵
耳鳥斎 画『絵本水や空』
（国立国会図書館所蔵）